

食育だより

添田町立添田中学校 栄養教諭 村上 弘子

10月18日、福岡県学校給食料理コンクールが開催されました。本年度は、田川郡を代表して添田小学校の調理員さんが参加し、「干しれんこん」や「ユズゴシヨ」など地場産物を用いて工夫を凝らした料理を審査員の厳しい目が向けられる中、限られた時間の中で手際よく調理しました。

また、11月28日には、田川郡内の給食センターの代表者研修会を行いました。この研修会は、2年に1度開催され、給食センターで課題になっていること等を協議しています。今年は『非常食』を議題の一つに挙げました。全国的には、非常時に備えて学校に何らかの食べ物を常備している学校も増えてきています。郡内では、まだ例がありませんが学校給食会で取り扱っている非常食の見本を見ながら「避難訓練の後に給食で乾パンなどの非常食を食べる」というような取り組みもいいのではないかという意見が出ました。

☆ノロウイルス警報が発令されています！

給食の各調理場では、日ごろに増して厳しい衛生管理を行っています。教室の方でも給食時間の手洗いの徹底を心がけていただきたいと思います！！

養護だより

添田町立真木小学校 養護教諭 藤澤 一美

田川郡学校保健会では、11月22日に視察研修を行いました。午前中は大牟田市の児童家庭支援センター『あまぎやま』を訪問し、主任相談員の坂口明夫氏から最近の子ども虐待や発達障がい児等に対するケアの話、また、坂口氏が実際に関わっている東北の災害児童のケア状況などの話を聞きました。

その中で、学校現場としてきちんと子どもの状況を把握し、正しい支援へと繋げていく事の大切さを学びました。また、支援センターの施設を見学させていただき、スタッフの方の子ども達に対しての細かい心配りを感じながら田川にもこのような施設があればと痛感しました。

午後からは柳川市の「ハリウッドワールド美容専門学校」を訪問し、学園長の古賀郁氏に最近の専門学生に対する接し方から私たちが日常関わっている子ども達への声かけの極意を伝授してもらいました。10代の子ども達も20代の子ども達も一様に言えることは、正しい事・まちがった事を教える時にはその子どもに合った言葉かけを行うようにしていく事が大切であると学びました。

また、私たちが日頃見る事がない専門学校の施設も見学させていただきました。

午前・午後ともに大変有意義な研修となりました。

田川教育研究所 新報

第105号

平成25年1月4日

発行所 田川郡教育研究所

<http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/>

あいさつ

田川郡教育研究所 所長 太田亮一

新しい年を迎え、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、教育研究所は今年度講演会をやめ「教育実践発表会並びに論文表彰式」という形に変えました。田川の厳しい実態にも関わらず、素晴らしい成果をあげている先生方が居ることを知って頂きたいと考えたからです。そして、その発表内容は期待以上で、本当に感服致しました。

生きる力としての学力向上は、教師が、人間力・コミュニケーション力・学習指導力を十分発揮してこそ実現可能なのだと感じました。そこには、情熱があり、徹底があり、プロフェッショナルとしての技と矜持がありました。参加して頂きました方々からも、多くの賛同を得ることができました。

ここ数十年、田川郡教育界は広範にわたって「幸せの青い鳥」を探し続けました。中央や県、高名な講師、等々、田川の教育に幸せをもたらすものを求めて・・・

やはり「幸せの青い鳥」は身近で探さなくてはならない。そう思うと同時に、これからは、田川の地にしっかりと根を張る「青い鳥」を育てるしかないと感じたところです。

これから数年で、多くのベテラン教師が教育現場を離れ、多くの新人教師が入ってくるでしょう。その新人教師を子どもたちにとっての「幸せの青い鳥」にしなくてはなりません。そのために為すべき事を為す。田川郡教育研究所の使命がそこにあると思います。

田川郡教育研究所の今昔

田川郡教育研究所OB 末永 豊 英

・戦後の田川郡教育研究所は、本当に粗末なものでした。古い木造の小さな二階建てで、その二階の薄暗い部屋で先輩たちが郡の教育発展の為、頑張っておられました。

・研究所は、みんなのものという観念のもとに教員も僅かながら年会費を負担していました。

「途中省略」

・今後の研究所は、どうすればよいだろうか。私もかつて所長を拝命された者の一人として、研究所の究極の目的は児童生徒のものでなければならぬと考えます。最近では諸般の事情で運営費も儘ならないようです。そこで私なりに考えている事は、今後の運営費は、

「教育委員会+教職員+保護者」が一体となっては如何でしょう。

・その一方法として、研究所主催の研究授業等を特定の教員のみでなく、新卒教員からベテラン教員まで、みんなの力の結集で行い、保護者にも公開して教育研究所の存在価値を理解して頂き今後の運営に協力して頂くという方法はと、外野の一人として考えてみました。

平成24年度 田川郡教育研究所職員

所長 太田 亮一 (添田小学校 校長)	副所長 縄田 哲也 (赤 中学校 校長)
幹事 平野 志津夫	書記 松下 香織
主任研修員 船瀬 安仁 (赤 小学校 教頭)	主任研修員 白石 毅 (金田中学校 教頭)
研修員 中山 謙一 (川崎小学校 教諭)	研修員 手嶋 圭吾 (糸田小学校 教諭)
研修員 春永 功次郎 (赤中学校 主幹教諭)	研修員 荒尾 和幸 (方城中学校 教諭)

平成24年度の田川郡教育研究所の主な事業

1 研究事業

◎ 研究主題に基づき、調査・研究・実践に取り組む。

2 研修事業

- (1) 田川郡教育研究所「教育実践発表会並びに論文表彰式」の実施
7月30日 於 香春町民センター
- (2) 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会への参加
8月 8日 於 嘉麻市下山田白馬ホール
- (3) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会への参加
11月16日 於 福岡市教育センター
- (4) 教育実践に関する研修会の実施 [筑豊地区教育研究所連絡協議会主催・筑豊教育事務所後援]
- (5) 言語活動の充実を図る学習指導研修会の実施 [同上]

3 研究物等の発行

- (1) 教職員名簿 (6月配布)
- (2) 所報 (第104号: 7月配布、105号: 1月配布)
- (3) 研究紀要 (第52集: 3月にCDで配布予定)

4 教育論文の募集

○昨年度応募数: 30本 (小学校: 26本、中学校: 4本)

研究の概要

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」（2年次）

～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

2 主題設定の理由

（1）社会の要請と教育改革の動向から

21世紀、知識基盤社会、グローバル化など社会が急速に変化する中、次代を担う子どもたちは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、歴史や伝統を継承しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々を尊重し共存することなど、変化に対応する能力や資質がいつそう求められている。しかし、国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえて、中央教育審議会にて審議・答申が行われ、教育基本法、学校教育法が改正された。そして、新学習指導要領が小学校において平成23年度から、中学校においては本年度から完全実施された。新学習指導要領は、「生きる力」を育むというこれまで理念を踏襲したものである。とりわけ、「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成し、学習意欲を養うことを重視し、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。また、学習指導要領の改訂にあたって充実すべき重要事項の第1として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

以上のようなことから、学習指導においては子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させ、それらが身に付いたかを見取る学習評価の充実を図られなければならない。

（2）田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

平成23年5月、故山本作兵衛氏の描いた炭鉱記録画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その影響は今でも児童生徒の生活に影響を与えている。

本郡の状況を見ると、厳しい経済状況にある家庭、不登校の増加や定着しにくい基本的生活習慣、見通せない将来への展望など課題が挙げられる。また、本郡の学校教育においては、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎・基本となる知識技能を確実に定着させ、知識技能を活用する思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が望まれる。

（3）これまでの研究の経過から

平成10～11年度	「生きる力」をはぐくむ授業づくり
平成12～13年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成14年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集をとおして～
平成18～22年度	「学力向上の取組に関する研究」 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成23年度～	「学習指導と評価に関する研究」 ～言語活動の充実を図った学習指導と 新しい評価の実践事例の収集を通して～

1年間の長期研修を終えて

福智町立上野小学校 教諭 中原 正文

平成23年度長期派遣研修員として福岡教育大学附属福岡小学校で研修させていただきました。この1年間、研究面・修養面で多くのことを学ばせていただきました。

研究面では、主題研究だけでなく、研究に対する姿勢や取り組み方を学ばせていただきました。審議では質問や意見の鋭さと厳しさに理解することすらままならず、常に圧倒されていました。自分の勉強不足を痛感すると同時に先輩方の勉強量、そして研究に対する妥協することのない熱意に、多くのことを学ばせていただきました。

また修養面では、相手意識をもつこと、人の時間を奪わないこと、行動全てに意味があること等本当に多くのことを学びました。今回学ばせていただいたことは、教師としてというより一人の社会人として、一人の人間として大切なことではないかと感じました。

このような素晴らしい研修の機会を与えていただきありがとうございました。研修の機会を与えて下さった在籍校の校長先生をはじめ、関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

福智町立伊方小学校 教諭 稲富 哲市

平成23年度長期派遣研修員として、福岡教育大学附属小倉小学校で研修させていただきました。研究主題を「進んで説明的文章へ関わり、伝え方の工夫を読む第3学年国語科学習指導」とし、研究してきました。指導教員の先生をはじめ、諸先輩方からの温かいご指導を頂きながら、研究を進めることができました。しかし、多くの課題もありました。今後も子どもが、説明的文章を読み解くことを楽しいと感じる授業を展開できるよう、実践を重ねていきたいと考えます。

また、他教科・他領域の先生方の研究授業を通して、学ばせていただいたことや附属小倉小学校で共に働かせて頂いた先生方、他の長研生との出会いは大きな財産となりました。

この1年間は、研究面・修養面共に教師としての在り方をとらえ直す期間となりました。研修で学ばせて頂いたことを糧に今後も自己研鑽に励みたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えて下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

糸田町立糸田中学校 教諭 太郎丸 嘉孝

平成23年度長期派遣研修員として、福岡県教育センター教育経営部教育相談班で研修させていただきました。

研究主題は「生徒の対人関係能力を向上させる指導の一考察」、副題を「ソーシャルスキルトレーニングと定着化の取組を通して」と設定し研究を行ってきました。今日の教育的課題の解決に向けて、学習指導要領をはじめ書物を読み込み、指導主事の先生方より指導・助言を受け、研修を深めることができました。また、教育相談的な手法についても多くを学ぶことができました。

更に、「福岡教師塾」の一期生として参加させていただき、教育課題に対する講演・講義、講師および塾生相互の討議・討論、発表を通して、教育観の確立や教師としての資質・能力の向上につなげることができたと感じています。この一年間で学んだことを、今後の教育実践に生かしていきたいと思っております。

このような素晴らしい研修の機会を与えて下さった関係の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

赤村立赤中学校 主幹教諭 春永 功次郎

第354回教職員等中央研修（独立行政法人教員研修センター）を受講する機会を与えていただきました。この4週間にわたる研修は自分の教員生活の中で、ものの見方、考え方を立ち止まり振り返る良い機会となりました。学校の危機管理意識（スクールコンプライアンス）の必要性を感じ、危機に強い組織（学校）を構築するとともに、教育法規を学び遵守することは学校を守る上で欠かせないものだと痛感しました。また、生徒指導、特別支援教育等では最先端の考え方をレクチャーしていただき、今後はこの貴重な経験を幅広く紹介させていただきたいと思っております。全国から集結した「教育に対して熱い情熱」を持った先生方と毎日、夜遅くまで語り合ったこともとても大事な財産となりました。このような貴重な研修の機会を与えて下さった県教育委員会、筑豊教育事務所、赤村教育委員会、また、校務多忙のなか快く送り出してくださった赤中学校の校長先生はじめ諸先生方に深く感謝とお礼を申し上げます。

研究発表会実施校の紹介

研究の概要



香春町立香春小学校
【実施日】6月29日
【学校教育目標】

楽しい学校づくりに努め、心豊かにたくましく生きる児童の育成

平成23・24年度 香春町研究指定・委嘱

論理的思考力をつくる算数科学習指導

～社会性を基盤に算数的・説明的活動を生かした授業の工夫～

<研究の特色>

論理的思考力を高めるために基盤となる社会性を育成するとともに、算数科学習指導の中で以下の3点からも検証していった。

【着眼1】学習課題の設定

【着眼2】「算数的・説明的活動」の位置づけ

【着眼3】深まりが実感できるふり返り

<成果>

○比較や順序などの思考の要素を活用することで児童相互で交流し、考え合う姿が見られるようになった。

○発表資料や穴埋めカードなどを準備して説明的活動に活用することは子どもたちの論理性を高める上で有効だった。



福智町立市場小学校
【実施日】10月20日
【学校教育目標】

子どもたちの夢を育て、夢を実現する力を培う

基幹学力研究会福岡大会を終えて

本校では、「子どもたちの論理的思考力を育てるための授業とはどうあるべきか」を研究の中心に据え、取組を続けてきました。昨年度も10月29日に「基幹学力全国大会」を開催しましたので、2年連続の大会開催となります。

去る10月20日(土)には、北は北海道から南は沖縄県までの一般参加222名の大盛会となりました。全職員による授業、筑波大学附属小学校の青木伸生先生、山本良和先生、田中博史先生、尼崎市立武庫小学校の森川正樹先生による公開授業が行われました。最後は筑波大学附属小学校の二瓶弘行先生による講演をいただきました。終日、盛りだくさんの研究会を開催することができ、本校にとっても授業づくり、学級づくりを深く学ぶことができました。

教育実践発表者紹介



添田町立真木小学校
【実施日】11月2日
【学校教育目標】

心豊かで、実践力のあるたくましい児童の育成

添田町教育委員会研究指定・委嘱

思考力・表現力を高める

算数科学習指導の在り方

～学び合いを重視した学習過程の工夫を通して～

<研究の特色>

思考力・表現力を高める学習指導の在り方を究明するために以下の2点から検証した。

○学び合いを重視した学習過程の工夫

○考えを共通理解する交流活動の設定

<成果>

・見通しを交流することで、全員が見通しを持って自力解決にあたることができた。

・見通しと集団解決の二段階で交流する場を設定したことで、考え方や方法、説明の仕方のスキルアップが図れた。

・アイデアボードを用いての交流は、友だちの考えと比べたり価値ある考えを選択したりする上で有効であった。

◎筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会

○発表者：添田町立津野小学校

主幹教諭 松内 暢子 先生

主 題：『数学的な考え方を高める算数科学習指導のあり方』

～一単位時間の各学習段階における言語活動の充実を通して～

◎田川郡教育研究所教育実践発表会

○発表者：添田町立添田小学校

指導教諭 石井 雄二 先生

主 題：『学力向上につながる日常的な学習指導の実践』

○発表者：川崎町立川崎中学校

主幹教諭 井上 修一 先生

主 題：『確かな学力を育む英語科の授業実践』

～県平均3段階を目指した指導方法の工夫改善を通して～

3 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導は、学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の理解を低次のものから高次のものへ変化発展させる目的意識的な活動である。今回の学習指導要領の改訂により、子どもたちの思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を行うとともに、その際、言語活動を充実させてそれらの能力を育成することが重視されている。ここで言う学習指導とは、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める児童生徒の学習、教師の指導を言う。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。そのため、学習指導において言語活動が重視されているわけである。これからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなり、ここで言う評価も思考力、判断力、表現力が身に付いたかを見取る活動を第一義とする。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

新学習指導要領完全実施の本年度(小学校においては前年度)、各学校、各教科等部会においては新しい学習指導要領にしたがった学習指導に取り組んでいることと考える。来年度についても、知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高めるため言語活動の充実を図った学習指導及び、思考力、判断力、表現力が身に付いたかを見取る新しい評価についての各教科等部会における実践事例の収集をすることにより、田川郡教育の充実・進展に寄与する研究とする。

4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価方法について究明する。

5 研究の内容

(1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。

(2) 各教科・領域等における主題を設定する。

(3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。

(4) 各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。

(5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

6 研究の計画

【2年次】

ア 研究主題・副主題の検討

イ 主題に基づく理論研究

ウ 実践研究(各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動)

○授業計画

○検証授業

○考察・まとめ

エ 研究のまとめ

オ 研究紀要の作成

小学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 部会長 校長 桑野 徳隆
 ・講師研修会「物語文の1時間の授業」
 ・講師研修会「説明文の1時間の授業」
 筑豊教育事務所 松崎弘明 指導主事
 ・福岡県児童文集田川郡審査
 ・福岡県児童書写田川郡審査

【社会科部会】 部会長 校長 高瀬 光一
 ・組織作りと活動計画作成、実践交流
 ・「トライアル」工場見学、実践交流
 ・県小社会科教育研究大会参加（大藪小）
 ・「社会科見学のしおり」作成
 ・本年度の反省とまとめ

【算数科部会】 部会長 校長 國本 裕介
 ・組織作りと活動計画作成、情報交換
 ・「田川プラン」の実践、検証、修正
 ・学年の実践交流、指導案の検討
 ・香春小学校研究発表会参加
 ・実践内容の交流、本年度の反省とまとめ

【理科部会】 部会長 校長 松村 重治
 ・実践交流、学習指導情報交換
 ・筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
 ・福岡県小学校理科教育研究大会への参加
 ・まとめと次年度の課題整理

【生活科・総合的な学習の時間部会】
 部会長 校長 立山 俊治
 ・組織づくりと活動計画・内容の確認
 ・実技研修「学校菜園・花壇づくり」
 講師 教育センター 平田 陽一 先生
 ・実践交流、情報交換等

【音楽科部会】 部会長 校長 永水 正博
 ・組織作り及び年間計画作成、実技研修
 ・講師研修会（歌唱指導）
 ・公開授業（上野小学校：大庭知美先生）
 実践交流
 ・実践交流、本年度の反省とまとめ

【図画工作科部会】 部会長 校長 村上 奈美代
 ・組織作りと活動計画作成
 ・実技講習及び作品鑑賞
 ・授業実践の交流と実践集の作成
 ・作品鑑賞（県児童画展作品）

【家庭科部会】 部会長 校長 渡邊 伴子
 ・組織づくり及び研修計画立案
 ・実技講習会 指導：栄養教諭 安倍ちか先生
 ・プランに沿った指導案作成
 ・筑豊地区家庭科研究大会（弓削田小学校）参加
 ・実践交流会

【体育科部会】 部会長 校長 角崎 計介
 ・組織づくりと年間計画
 ・近接学年毎の実践交流と情報交換
 ・ゲーム・ボール運動実技講習会（糸田小）
 ・公開授業研（糸田小 山森 直哉 教諭）

【道徳部会】 部会長 校長 中村 英子
 ・講師招聘研修会 「道徳教育の充実」
 講師 筑豊教育事務所 近藤義徳 先生
 ・小学校道徳教育研究大会（青葉小学校）参加
 分科会発表 糸田小学校 持丸修一郎 先生
 ・小学校道徳教育研究大会（帆小学校）参加

【外国語活動部会】
 部会長 校長 杉原 哲彌
 ・組織づくりと研修計画立案
 ・講師招聘研修会 県教育センター 浦田貴子 先生
 ・公開授業研修会 池尻小学校 西畑いせ 先生
 ・本年度のまとめと反省

【特別活動部会】 部会長 校長 井上 憲治
 ・組織作りと活動計画・内容の確認
 ・低・高学年部会ごとの情報交換と交流
 ・公開授業（中津原小 柳井文陽先生）
 ・まとめ及び次年度への課題整理

【特別支援教育部会】
 部会長 校長 古田 浩治
 ・組織づくり、活動計画案作成、情報交換等
 ・講話：川崎特別支援学校
 高宮 智恵 先生
 ・実践交流、情報交換等

中学校教科等部会 活動報告



【国語科部会】 部会長 校長 小田 玲子
 ・組織作り、年間計画作成、講話（6月）
 演題「思考力等を育む言語活動について」
 ・筑豊地区中学校国語科研究会研修会参加
 ・公開授業（12月）川崎中 田丸陸子教諭
 第3学年 単元「いにしへの心と語らう」

【社会科部会】 部会長 校長 白石 俊幸
 ・本年度の研究テーマ
 「新学習指導要領にもとづいた評価方法の研究」
 ・実践報告 糸田中学校 奥村利恵教諭
 ・平成25年度 授業研を実施

【数学科部会】 部会長 校長 縄田 哲也
 ・研究テーマ及び組織決め、年間活動計画、
 活動内容の確認
 ・公開授業研究10月（赤中学校）
 ・県数学科研究発表会等参加、年間のまとめ

【理科部会】 部会長 校長 佐々木 英一
 ・組織づくり、研修計画作成
 ・公開授業 赤中学校
 ・実験講習会 方城中学校
 講師 小泉憲司 先生

【音楽科部会】 部会長 校長 村上 きぬよ
 ・研究テーマ、組織・年間活動計画策定
 ・授業実践交流・・・赤中、川崎中
 ・各学校への合唱コンクール協力体制審議
 ・中音研参加

【美術科部会】 部会長 校長 友松 秀樹
 ・研究テーマに沿った研究・研修の推進
 ・組織づくりと年間計画の作成
 ・県美術教育研究大会及び公開授業への参観
 ・県中学校美術展への作品出品

【保健体育科部会】 部会長 校長 高橋 孝徳
 ・組織作りと年間計画の作成 ・本年度体力
 向上プランの集約 ・公開授業（11月）
 川崎中学校 矢守正宜 教諭
 川崎中学校 近藤優美 講師 による
 体育分野「柔道」の指導法

【技術・家庭部会】 部会長 校長 鍋藤 聖一
 ・学習指導の研修会（生物育成）
 ・公開授業（糸田中） 事前事後の審議
 ・研究紀要の審議 ・県大会参加（京築大会）
 ・全国、九州大会大分大会 実践発表（生物育成）
 発表者 春永 功次郎（赤中学校）

【英語科部会】 部会長 校長 小原 孝司
 ・組織・年間計画作成等（6月）
 ・研修会実施（8月）
 研修内容 「学年別授業実践の交流」
 ・県大会参加（11月）
 小郡市立三国中学校

【道徳部会】 部会長 校長 小田 玲子
 ・組織づくりと年間計画の作成（7月）
 ・研究主題 子どもの言語活動を通して生命を
 見つめる道徳の時間の研究
 ・公開授業（3学期）池尻中学校 北崎七恵教諭
 ・指導案集作成（内容項目1 3月発行予定）

【総合的な学習の時間部会】
 部会長 校長 白石 俊幸
 ・本年度の研究テーマ
 「新学習指導要領にもとづいた総合学習の
 実践のあり方の研究」
 ・実践報告 池尻中学校 武田倫明教諭

【特別活動部会】 部会長 校長 奥 浩幸
 ・組織、研究計画づくり（糸田中）
 ・学級活動の実践研究
 赤池中学校 杉浦慶臣教諭
 ・研究紀要の審議